

とうみ

長野県東御市

刀剣文化振興

地域おこし協力隊

申込受付期間

令和5年5月1日(月)～

令和5年6月30日(金)必着

募

集

1名

募集人員



↑詳細・応募方法は、HPをご確認下さい。



東御市は、長野県の東部に位置し、北は上信越高原国立公園の2,000m級の浅間連峰がそびえ、南は八ヶ岳中信高原国定公園の蓼科山、八ヶ岳連峰の雄大な山なみが見渡せる、豊かな風土と歴史に育まれた地方都市です。

地域が中心となって維持・管理してきた有形文化財、民俗芸能や民族慣習等の無形民俗文化財のなかには、少子高齢化や地域コミュニティの希薄化で担い手が減少し、保存・継承が困難なものがあります。東御市では、市民の貴重な共有財産である文化財を安定的に保護し、後世に継承していくために、保存事業の継続と文化財への理解や振興の機運を高める普及啓発活動の推進が必要と考えています。

東御市・滋野地区は幕末の刀工・山浦真雄、山浦環(源清麿)の出生地です。山浦環は後に四谷正宗の異名で知られ、江戸三作と評される腕前を持ち、その波乱に満ちた人生と相まって江戸で随一の人気を誇りました。また北御牧地区・八重原には、長野県の無形文化財保持者に認定された宮入法廣氏が鍛錬所を構えています。江戸時代から現在まで東御市に息づく刀剣文化の掘り起こしと継承、活用が求められています。

今回、この刀剣文化を掘り起こし、刀剣文化振興に対する機運を高め、調査研究や普及啓発活動、情報発信を推進するため、地域にとけ込み、新たな視点で文化芸術の振興に意欲的に取り組んでいただける地域おこし協力隊を募集します。幕末の山浦兄弟、そして現代の宮入法廣刀匠ら刀鍛冶の息吹を発信し、5年後、10年後の東御市における刀剣文化振興の核となっていたただける方からのご応募をお待ちしております。

東御市の刀剣文化

みやいり のりひろ

宮入法廣

長野県無形文化財保持者(工芸技術)
平成23年3月28日指定

宮入法廣氏は、昭和31年(1956)刀匠宮入清宗の長男として生まれました。人間国宝故宮入行平は、父清宗の兄であり、法廣氏にとっては伯父にあたります。

法廣氏は昭和53年(1978)国学院大学文学部を卒業後、石川県松任市(現白山市)在住の、人間国宝隅谷正峯氏に師事し、5年間の修行を経て、昭和58年(1983)に独立し平成7年(1995)まで坂城町において、父清宗とともに作刀に専念しました。平成8年(1996)に旧北御牧村八重原に、鍛刀道場を構えて現在にいたっています。

昭和58年(1983)の「新作名刀展」(コンクール)に初出品後、特別賞8回・優秀賞4回・「新作小品展」特別賞6回・優秀賞5回をそれぞれ受賞しました。平成7年(1995)12月には、39歳という若さで、新作名刀展無鑑査の認定を受けるとともに、旧北御牧村無形文化財に指定されました。

作風は、師伝の備前伝(びぜんでん)を得意としています。備前伝とは、備前長船(現岡山県瀬戸内市)を中心に栄えた刀鍛冶の作風で、優美な刀の形と、刃紋の華やかさが大きな特色であります。郷土の名工山浦真雄・清磨兄弟も、最初は備前伝を学んでいます。

また、正倉院に伝わる刀子の復元を手がけ、独特の作風を展開しています。刀子(とうす)とは、奈良時代の小刀で、外装に様々な意匠をほどこし、貴族の間では、御護りとして用いられていたものです。

平成14年(2002)から16年(2004)にかけて、高円宮憲仁親王殿下の三女王様の御護短刀を謹作、高円宮妃殿下久子様にも刀子を献上しています。また、平成15年(2003)横綱朝青龍関の、土俵入り太刀を製作しています。

平成16年(2004)東御市発足にともない東御市無形民俗文化財に指定され、平成23年(2011)には長野県無形文化財保持者に指定されました。



やまうらまさおたくあと

山浦真雄宅跡

長野県史跡
昭和37年7月12日指定

山浦真雄宅跡は、千曲川の断崖に臨んだ景勝の地にあり、伝説で有名な「牛に引かれて善光寺まいり」の「布引

の岩」が千曲川をはさんだ対岸の絶壁に眺められます。刀工山浦真雄(やまうらまさお)・清磨(きよまろ)兄弟の生家(母屋)自体は残っていませんが、土蔵風の納屋(約2m四方)と石造の水瓶2基および天保2年(1831)に真雄が建てた石灯籠が残存しています。石灯籠には「御武運長久」そして「敬建」ともあり、真雄が小諸藩主牧野氏の武運長久を祈って建立したものとみられます。

真雄は文化元年(1804)に小諸藩領赤岩村の名主の家に生まれましたが、剣術修業をするなかで納得のいく刀を自分で制作しようと、古式の優れた鍛冶を極めようしました。江戸の水心子正秀(すいしんしまさひで)に作刀の手ほどきを受け、また上田藩の刀工河村寿隆(かわむらとしたか)に入門しています。生家において昼は諸用(名主職・農事)にあたるかわら、夜毎に弟の清磨と二人で鍛刀に励んだ、と晩年の手記「老(おい)の寝ざめ」に記してもいます。

天保10年(1839)には牧野氏の、次いでは上田藩主松平氏の佩刀(腰に帯びる刀)制作の注文をうけるなど、小諸や上田で本格的な刀鍛冶として過ごすようになり、嘉永6年(1853)からは松代藩工としての多くの名作を残しました。明治7年(1874)、火災で焼失した生家の事後処理のために赤岩を訪れ、焼け残った現存の納屋で寝起きしていた折に倒れ間もなく死去したといい、この地に葬られました。71歳でした。

弟の清磨は江戸四谷に住み、四谷正宗と讃えられた名刀工として知られています。



問い合わせ先

〒389-0592 長野県東御市県281番地2

東御市 企画振興部 文化・スポーツ振興課 文化係

電話:0268-71-0670(直通) FAX:0268-63-5431

E-mail:bunka-sports@city.tomi.nagano.jp